

2025 年度開催 第 13 回大谷大学文藝コンテスト
にんげん部門 総評

審査委員長 木越 康

第 13 回大谷大学文藝コンテスト（にんげん部門）、高校生部門・中学生部門の審査を行いました。多数の応募作品から、最優秀賞は高校生部門「自分らしく」中学生部門「夢を諦めない社会へ」が選ばされました。私は高校生の皆さん的作品と中学生の皆さん的作品を一緒に読み、評価をさせていただきましたが、それぞれに力作ぞろいで、選考には大変苦労しました。日頃は大学院生のレポートや研究者の論文を読んでいるので、皆さんの生き生きとした感性と表現の初々しさに、大きな刺激を受けたことです。

中高生の皆さんには「自分探し」や「人間関係に悩む様子」、「未来への不安」など、人と社会を見つめる作品が多くありましたが、素朴に物事を見つめて考える姿勢に、忘れていた何かを思い出させてくれる気がしました。しかしその中でも、高校生と中学生では見る視点が違っているのだと感じさせられました。それは、人間としての成長の過程なのかもしれません、やはり高校生の方々の視点には、自己や他者との間の葛藤の問題がより複雑に考察されている印象を持ちました。この世に生まれて自我に目覚め、目覚めた自我が他者を意識して関係に苦慮し、他者との関係に苦慮する自我が改めて自己によって批判的に検証される、そのような一連の流れを、中学生の作品から高校生の作品の間に見たような気がします。中学生は入り口、高校生は出口に向かって進んでいるのでしょうか。

私たち大人はすべてに慣れ、他者も自我も深く考えることもなく、自己を批判することなく受け入れたり諦めたりしているのかも知れません。若い頃の感性をこのような文藝作品として残し、将来に振り返ってみるのも楽しいのではないかと思います。皆様ご応募ありがとうございました。そして受賞された皆様、おめでとうございました。